

2022 年度下期 家賃補助金交付先

2022 年度下期 家賃補助金交付先として、以下の 3 社を選出しました。

※ 申請受付順に掲載

< 1 >

交付先 株式会社 Future d Me（本社：東京都中央区、研究所：柏市）

代表者 代表取締役 CEO 宮本悦子

業種 医薬品の研究・開発・製造・販売 等

業務内容・研究開発内容

【 CANDDYプラットフォームで未来の個の薬づくりへの挑戦 】

社名は、「Future（未来）の Drug（薬）を Me（一人ひとり）に！」という意味で、当社の経営ビジョンを表している。

本プロジェクトは、未来の個別化医療（ゲノム医療）において、薬が創れない標的（アンドラッグダブル・ターゲット）に対して、CANDDY 技術で薬を創り、薬がないことで治療を諦める患者さんが一人でも少なくなることを目指している。

CANDDY 技術とは、当社代取が東京理科大学で発明した新しい創薬モダリティであり、病気の原因のタンパク質を分解して病気を治療する技術のことであり、Chemical knockdown with Affinities aNd Dygradation DYnamics の略である。

病気の原因のタンパク質（標的）を阻害する従来薬に対しては、標的に限定がなく、汎用性が高いこと、また核酸や抗体医薬に対しては、低分子化合物なので、飲み薬の可能性があり、製造コストが安く、薬の保存や管理が常温で可能となるなどの利点があるとしている。

当社は、CANDDY 技術を土台とした東京理科大学発ベンチャーとして設立され、経営ビジョンの実現に向けて、自社で薬の開発の非臨床、臨床入りへと進める「自社創薬パイプライン事業」と、特許を裏打ちとして製薬企業との共同研究型契約の「CANDDY プラットフォーム事業」の 2 つの事業を展開している。

当社代取は、2021 年に、女性起業家に贈られる「女性チャレンジ賞」を内閣府男女共同参画会議から受賞している。

※当社には、家賃補助金（入居施設：東葛テクノプラザ）のほか、助成金を交付。



< 2 >

交 付 先 株式会社 イルミナ (本社：船橋市)

代 表 者 代表取締役 上片野 充

業 種 光応用製品の設計・開発・製造

業務内容・研究開発内容

【 透明導光板による 3D イルミネーションパネルの開発 】

当社は、導光板に形成する反射ドットの形状と配置を精密に制御することで高い指向性を持たせ、これと指向性の高い光源を組み合わせることにより、1枚の導光板で10種類以上の異なるデザインを特定の方向に向けて発光させることができる、独自の導光板加工技術を保有しており、これまでの透明導光板イルミネーション製品に、新たに3D表示とアニメーション表示の機能を追加することを可能とした。

当社代取は前職において導光板製品の開発に携わり、光応用製品の開発製造を中心的に進める中、透明導光板による3D及びアニメーション表示方法に関する技術を発明し、2015年に特許を取得している。

3D表示だけであれば3D液晶やレンチキュラー印刷、ホログラム等があり、また透明性だけであれば透明液晶や透過型プロジェクタ等の表示方法が存在しているが、両方を同時に満たし、かつ経済性も有するのは、当社の3Dイルミネーションパネルのみとしている。

3Dイルミネーションパネルは、薄い導光板と入光用のLED光源を設置するスペースさえあれば、ほとんどの場所に透明発光表示用のデバイスとして適用できるので、アミューズメント機器向けのイルミネーション、自動車内外装、電気製品の加飾や計器表示、店舗内外装やショウウィンドーイルミネーション、サインやギフト、インテリア製品、キャラクター商品など、様々な分野への展開が可能であるとしている。

※当社には、家賃補助金（入居施設：ベンチャープラザ船橋）のほか、助成金を交付。



< 3 >

交 付 先 株式会社 G R I P S （本社：流山市）

代 表 者 代表取締役 森 田 康

業 種 情報・通信業、コンサルティング業

業務内容・研究開発内容

【 次世代ロボット制御ソフトウェアロゼッタ（ROSSetter）の開発 】

本プロジェクトは、独自性が強くブラックボックス化されているロボット制御用ソフトに ROS（ロボット OS）という中間層を設けることで、ユーザのアプリケーション部分とハードウェア依存の高い制御部分を疎融合させ、ハードウェア依存度の低いオープンな制御アプリ開発を支援するソフトウェアロゼッタ（ROSSetter）を開発するものである。

ロゼッタ搭載のコントローラを使うことで、ユーザはアプリケーションを汎用性の高い知的財産として再利用、資産化することができ、またロボットベンダは、ロゼッタ対応の API を準備することでユーザアプリの実装支援やソフト移植に関する煩雑なサポート業務から解放され、本来のハードウェア設計に集中できる利点があるとしている。

当社は、今後生産現場における技術者不足が深刻化し、それに伴い協働ロボットを含むロボットの導入の加速は不可避と考えており、ロボットを導入する可能性のある市場での拡大を見込んでいる。